

「一流」との協業で技術を磨き発展 原点の製材に立ち返り新たな挑戦へ

江戸時代から製材業を営む株式会社米澤製材所。建築設計・施工のほか、樹形を生かした無垢材、一枚板のカウンター、テーブルを国内外の五つ星ホテルや高級レストランに納入しています。東京では、世界のサニタリーブランドを取り扱う「KANEJIN」も展開し、実績を重ねています。代表取締役社長の米澤政幸氏に、今後の取り組みや理事長を務める富山県木材協同組合連合会での取り組みについて伺いました。

株式会社米澤製材所

代表取締役社長 米澤 政幸 氏

「好き」から始まり発展

江戸時代から代々製材業を営みながら、建築、インテリアなどでも実績を重ねています。

確かな記録はありませんが、祖父の祖父が創業し、代々製材を続けています。私は東京の大手工務店で営業や現場監督として勤め、28～29歳のとき入善に戻って入社しました。先代から始めた在来工法の家づくりと並行して、好きだったログハウスや、柱や梁に樹齢150年以上の太い丸太を用いたポスト・ビーム工法、ティンバーフレーム工法の家づくりに乗り出しました。日本で暮らす外国人の別荘として、白馬などで建てています。

インテリアも好きで、世界の

水回り製品を輸入販売するブランド「KANEJIN」を立ち上げました。東京にショールームを構えたところ、デザイン性の高い洗面ボウルや浴槽などが著名なデザイナーの目に留まり、以来、高級マンションや有名ホテルへの納入実績を重ねています。デザイナーとの協業で、漆塗りの浴槽なども手掛けました。ベルギーのインテリア雑貨ブランドや飲食店も展開しています。

国内外、さまざまな木材を取り扱うなかで、種類がそろった北米やイタリアなどへも足を運び、自身で買い付けをします。無垢材、一枚板の樹形を生かし、レジンで仕上げるテーブルやカウンターは当社の特徴です。特徴があり、いいものを出せば必ず返ってきますし、レベルの高

い仕事をさせてもらうことで、それがスタンダードになっていきます。

JAS機械等級に対応

最近では県産材の利活用を力を入れていますが、背景についてお聞かせください。

3年ほど前から、原点である製材業をちゃんとやりたいと考えようになりました。木材価格が高騰するウッドショックがあり、円安が重なり、輸送コストなども上昇し続けています。ロシア材も入りにくくなり、国産の木材、地元産材を使おうという流れになっています。しかし、富山の県産材使用率は全国で40番台と低いのが現状です。冬は雪が降り、山の斜面が急で作業しづらい、といった気候・



製材工場



自社で手掛けたテーブル

よねざわ・まさゆき
昭和45年9月29日、入善町生まれ。
平成3年、中央工学校建築設計科卒業後、株式会社 木下工務店を経て、
8年、株式会社米澤製材所に入社し、
12年、代表取締役社長に就任。令和3年、富山県木材協同組合連合会理事、現在に至る。



地形的に不利な点は否めませんが、富山県の林業を何とかしたいといけません。

当社はJAS規格の認定工場ですが改築して、もう一つ上の機械等級を取得するための機械を導入。今春の稼働を目指しています。公共施設を建てる事業にも参画しやすくなり、県産材の新しいチャレンジにも活用できないかと模索しています。建材からバイオマス発電まで、事業化につなげられればと考えています。学校や企業などに向けて、山で植林したり、木の伐採を見せたりする木育ツアーも実現したいです。

県産材キットを積極展開

今後の取り組みや、進行中の新しいプロジェクトについてお聞かせください。

当社で開発した、富山県産材を使った小屋キット「サイコロ」を積極的に展開したいです。規格寸法2～4mの角材と接合金物のセットで、職人の技術がなくても組み立てられるのがポイントです。富山市の城址公園の管理棟として使われており、旧知の著名な建築家が手掛ける事業でも導入が決まっています。

住宅建築のノウハウを活かしてキャンピングカーやキッチン

カーも製作しています。最近ではサウナカーを北海道に納品しました。オフグリッド（電力を自給自足する）のキャンピングカーも進行中です。発電システムや蓄電池、HEMS（省エネのための管理システム）を搭載し、災害時にも役立つと思います。費用はかかりますが、企業も関わるプロジェクトの一つです。

協業するデザイナーや建築家、さまざまなジャンルで活躍する方々と公私で交流するなかで、新しいアイデアや構想が生まれます。人脈にはお金がかからないものと思っていて、紹介してもらうこともあれば、自分も紹介しながらつながっていくように思います。

川上と川下をつなぐ役割

富山県木材協同組合連合会ではどのような取り組みを考えていますか？

最近、公共事業や民間の大きなプロジェクトで木材を使うことが多くなっています。当会や富山県森林組合連合会（県森連）などで組織するとやま県産材需給センターでは、山で木を育てる人々と使う側をつなぎ、県産材を安定供給できる体制を整えています。勉強会を重ねて活用が進む一方で、事前に必要な木

材の種類や量の情報を得ていても、ストックする場所や余裕がないので、製材側は限られた期間で、いいものが出せない、コストも厳しい、採算が合わないとなりがちです。ストックするためには事前に購入しておかねばならないリスクもあり、現状難しいのですが、今後改善していきたいところです。

木育についても、例えば、植林を通して自県の山を守ってほしいという気運を高めていければと思います。植林後は手入れも必要なので、県森連や企業などにバックアップをお願いしながら、数年かけて取り組んでみたいと考えています。

毎朝1時間のランニング

どのようにリフレッシュしていますか？

朝起きて1時間ほど走ったり、散歩したりがルーティンになっています。夏は早朝4時半頃から海の辺りを7kmほど回り、海の人たちと話をし、7時半から出勤します。東京では隅田川沿いを6～8km。海外にいても必ず朝1時間走るか歩いて過ごします。体調管理ではないけど、自分の調子もわかるというか。大事にしたいルーティンです。